

自立と共生！

たくましい日本！

No. 169号

民主党 中川正春の 永田町かわら版

2002年8月16日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

○元気のいい民主党だから

にぎやかな党首選挙に

民主党の代表選に、若い候補が4人名乗りをあげています。前原、野田、松沢、河村候補の誰をとっても、真剣にこの国の現状に危機感をもち、民主党がもうひと飛躍するための挑戦をかってでた勇士です。私達は、彼らが鳩山さんや菅さんに挑戦することによって、民主党の機軸をよりはっきりとしたものにできるだろう、若い有能な議員が沢山いるのだと言う事も、テレビや新聞を通じて国民の皆さんにもわかってもらえるだろうという気持です。

しかし、マスコミは、こちらの思い通りには、なかなか報道してくれないものです。

新聞の報道は、彼らの立候補を一本化できないことが、民主党のバラバラ感に結び付いていると言います。路線対立のような印象を与えていることが残念でなりません。

逆に、私達は、若い人たちにとって、言いたい事が自由に言える民主党の体質は、誇りにすべきものだと思っています。自民党だと、脅したり、すかしたりで、派閥のボスから圧力がかかり、黙り込んでいる若い議員たちから見れば、私達民主党の自由な雰囲気うらやましいと言うのです。

昔ながらの見方でしか理解できない、先入観で決め付けるマスコミに、東京へ出かけて行って、しっかり説明しようと思っています。

○9月国会は地方経済と中小企業 対策を中心に

地元の中小企業が、深刻な状態になってきていると感じます。物価が下がり続けて、商売が採算に乗らなくなってきた。仮に、新しい分野への投資をしようにも、銀行から資金が出ない。一部銀行などに代表されるように、合併を期に、これまでの運用資金

融の実態にあっていないことは、前から指摘されてきました。

ヴェンチャー ファンドなどと、格好のいいことを言いますが、日本の現状では、中小企業には、直接金融はムリな話と割り切る必要があります。中小企業の真の味方になる銀行が要ります。

その上で、日本型の中小企業金融を作り出していく必要があると思っています。土地や資産の担保価値に応じた貸し出し枠の設定だけでは、その価値が下がれば、現在のように貸しはがしが起きる。経営者の人材評価とプロジェクトの内容を換算して、弾力的な金利運用でリスクをはかり、貸し出し枠に反映できないか。高利貸しと銀行の中間で、中小企業のリスクを取る金融が必要です。

個人保証の限度枠を設定して、倒産した時に一族丸裸になるのではなく、第二のチャンス、第三のチャンスにチャレンジできる環境を作る。これは、企業倒産、自殺という前時代的なシステムから、企業家が元気に起き上がってくるたくましいシステムへと社会が脱皮することです。

独占禁止法、公取法を見直して、小さいところも公正に競争できる市場を作る。例えば、現実に、大きいところが、小さな店の仕入原価を切って安売りできるような市場を許しています。これは、新たに商売を始めようという起業家の芽をことごとく摘んでしまうことになります。

9月から始まる臨時国会では、中小企業対策を、最優先課題の一つに頑張ります。

○地方議員候補の公募にたくましい人材が集る

三重県で公募した地方議員の応募者が、12人ほどになり、既に現職議員で、市会から県会に挑戦したいという人達や、全国公募で募集した三重県出身の候補者とあわすと15人を越える数になりました。これから、具体的な選考と選挙区への割り

を突然貸し剥がして中小企業を破綻に追い込む例が多くなっています。

私の身近な企業も、今年に入って何件か倒産しました。これまでとハッキリと違ってきたのは、「なぜ、あそこが行き詰まったか。」と、納得できないケースが増えている事です。金融庁の検査マニュアルによる銀行の貸し出し先の整理が、現場の中小企業金

当て作業が始まります。

具体的な新人候補が擁立できてはじめて、民主党が足元からつよくなっていく。このことです。皆、これまでの政治家のイメージにとらわれない、自分の世界もしっかり持った人達であるだけに楽しみです。

中川正春